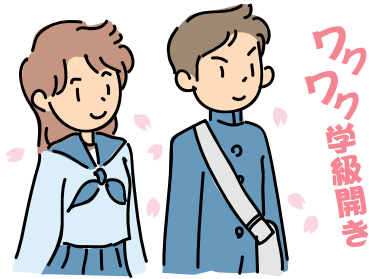


共に高める学級づくり

コミュニケーション



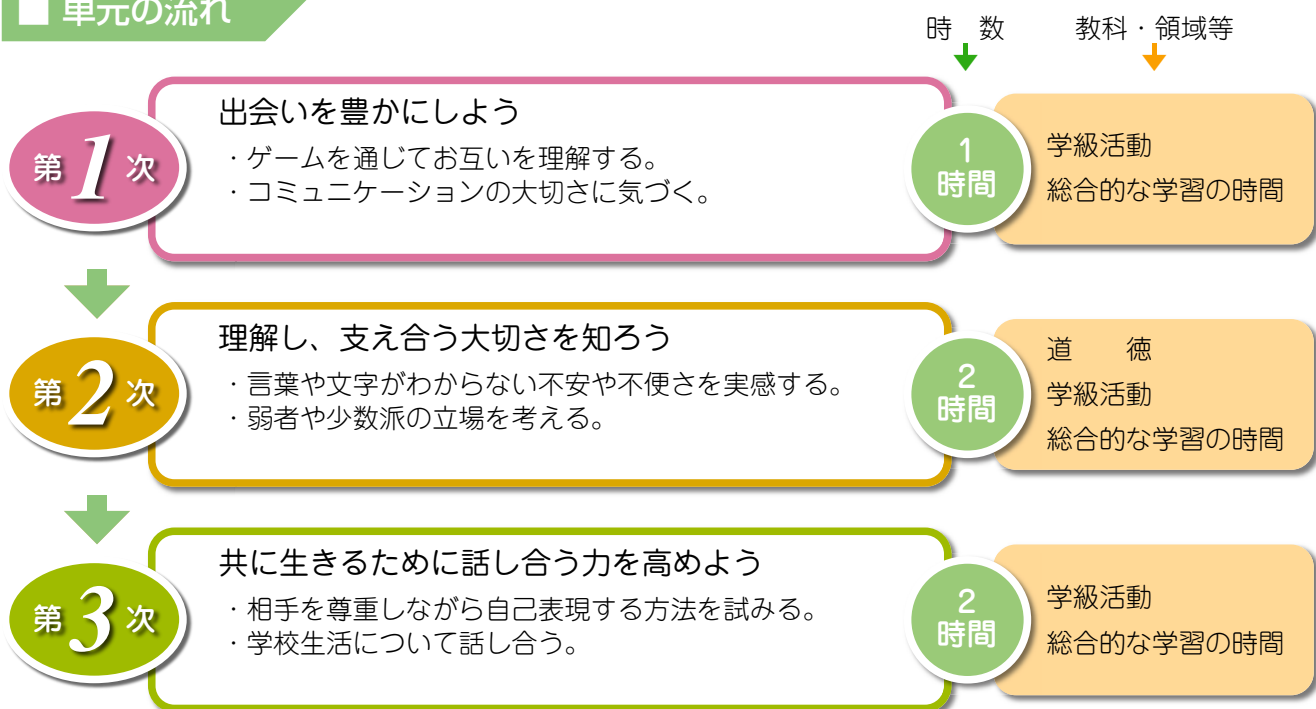
単元の学習時期を、「中学入学時～6月末」に設定して、教科・領域等を横断的に活用しましょう。そうすることで、比較的無理なく授業を実施することができます。



単元の目標

- 1 他者の気持ちや考えを共感しながら受け止め、自分の考えをまとめることができる。(3-⑨コミュニケーション)
- 2 自分の気持ちや考えを正確にとらえようとし、様々な方法を活用して率直かつ誠実に他者に伝えることができる。(3-⑨コミュニケーション)
- 3 他者との学び合いや対話を大切に、合意を形成しながら物事をすすめようとする。(3-⑨コミュニケーション)
- 4 相手の痛みや感情を感知するとともに、社会の不合理や偏見、差別を見抜くことができる。(2-⑤人権感覚)
- 5 一人一人の価値観や行動様式等を尊重するとともに、異文化の理解に努め、共に高め合おうとする。(3-⑧多様性・多文化共生)

単元の流れ



第1次 出会いを豊かにしよう

目 標

- 相手の考えを共感しながら聴くことができる。(単元目標1)
- 自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる。(単元目標1)

準 備 物

- ・魔法のマイク
- ・資料①「コミュニケーションカード」(『対話ですすめる人権学習』P40)

展 開 【1】

学 習 活 動

1

「ジャンケン列車」(『対話ですすめる人権学習』P35)をする。

2

資料①「コミュニケーションカード」を使って、ゲームを行う。

3

感想を書き、発表する。

支 援 及 び 留 意 点

- ・安心して話せる雰囲気をつくる。
- ・生徒の状況に応じて「コミュニケーションカード」の内容を工夫する。
- ・うなずきながら聴く等の傾聴的な態度を助言する。
- ・仲間に聴いてもらえた時の気持ちを書くように指導する。

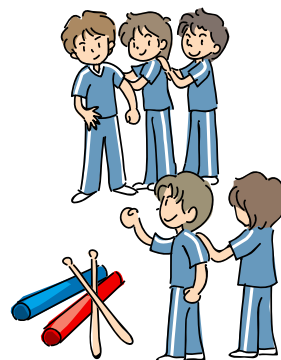
評 価 規 準

聴くことや伝えることを大切にしようとしている。

【価値 態度】

ポ イ ン ト

- プログラム全体の導入として本次を構成しています。入学直後、新入生の誰もがこれからの学校生活に希望をふくらませています。生徒たちの目が輝く学級開きをしたいものです。
- 本次の活動は、安心して何でも話せるムードを学級につくることを意図して、設定しています。
- ゲームのすすめ方については、「コミュニケーションカードゲーム」(『対話ですすめる人権学習』P39・P40)を参照してください。



「魔法のマイク」の説明

- ・ドラムスティックやバトンなどを「魔法のマイク」とすることにします。
 - ・「これは魔法のマイクです。このマイクを持つと言いたいことが安心して言えます。このマイクを持った人が話す人、他の人は聴く人です」のように紹介します。
- (マイクがあると不思議なもので、話す人、聴く人という意識が生まれます。マイクは、親しみをもてるものを自作するとよいでしょう。)

第2次

理解し、支え合う大切さを知ろう

目 標

- 相手の痛みや感情を感知し、自分たちにできることを考える。(単元目標4)
- 疑似体験や読み物をとおして、言葉や文字がわからない不安や不便さに気づく。(単元目標5)

準 備 物

- ・資料②「ハングルで書かれた大阪市営地下鉄谷町線路線図」(掲示用拡大版及び配付用)
- ・資料③「大阪市営地下鉄谷町線路線図 日本語版」
- ・資料④「日本に来た経過と外国人差別」 ・付せん紙

展 開 【2-(1)】

学 習 活 動

1

外国語のVTRを見る。

2

資料②(掲示用拡大版)を見て、感想を発表し合う。

3

変換表を活用して路線図を読みとる。

- ①天王寺駅はどれでしょう。
- ②天王寺駅までの運賃はいくらでしょう。

4

感想を発表し合う。

5

日本語のわからない人が駅の路線図を見ているときの思いについて考え、話し合う。

6

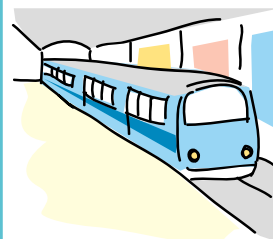
気づいたことや感想を書く。

支 援 及 び 留 意 点

- ・全く何を言っているのかわからない言葉で話している場面を視聴させる。
- ・「目が覚めたら、大阪の千林大宮駅にいました。驚いたことに、行き交う言葉も文字もハングルです」という説明から始める。
- ・一人で取り組ませ、孤独感を疑似体験させる。
- ・早く答えのわかった生徒には、他の駅を見つけるように指示する。

- ・不安や不便を感じている人に手助けすることの大切さを印象づける。

評 価 規 準



疑似体験をとおして、文字が分からないと、たいへん不安で不便なことに気づくことができる。

【技 能】

学習活動

1

前時の疑似体験（非識字体験）の感想を発表し合う。

2

資料④「日本に来た経過と外国人差別」を読む。

3

感じたことを発表する。

4

グループで自分たちにできることは何かを考える。

5

グループの意見を全体に発表する。

6

感想を書く。

支援及び留意点

・前時の活動を思い出させる。

・読みとるポイントを板書する。

- 筆者が日本に来た経緯
- 最初の学校での様子
- 転校後の様子

・集団が個人を傷つけたり、生き生きとさせたりすることに気づかせる。

・「自分たちのクラスに日本語のわからない生徒が転校してきた」と仮定して考えさせる。

・「KJ法」で整理させる。

評価規準

主人公の痛みや喜びを理解し、共感することができる。

【技能】

自分たちにできることをすすんで考えようとしている。

【価値態度】

ポイント

- 道徳の時間と他の領域等を横断した取組例です。展開【2-(1)】と【2-(2)】はなるべく間隔をあけない方がよいでしょう。
- 現在の大阪地下鉄路線図には駅番号がついており、日本語がわからなくても理解しやすくなっていることを、社会における人権尊重の取組の例として紹介しましょう。
- 「KJ法」については、『対話ですすめる人権学習』（P19）を参考にしてください。

「ハングルで書かれた大阪市営地下鉄谷町線路線図」

資料③日
本語版

오오사카시에이치카테쓰
다니마치센



目が覚めたら、大変驚いたことに、行き交う言葉も文字もハングルです。
路線図のハングルは下の変換表を使えば、日本語のかなに翻訳できます。
今は千林大宮（센바야시오오미야、せんばやしおおみや）駅にいます。

모리구치
210

센바야시
오오미야

- ① 天王寺駅はどれでしょう。
- ② 天王寺駅までの運賃はいくらでしょう。

미야코지마
210

덴진바시스지6
210

히가시우메다
210

미니미모리마치
210

덴마바시
210

다니마치 4
240

다니마치 6
240

다니마치 9
240

덴노우지
270

아베노
270

아야노사토
270

다나베
270

大阪市営地下鉄
谷町線

守口
210

千林
大宮

都島
210

天神橋筋六
210

東梅田
210

南森町
210

天満橋
240

谷町四
240

谷町六
240

谷町九
240

天王寺
270

安倍野
270

文の里
270

田辺
270

ハングル-ひらがな変換表

		ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段	ヤ段	ユ段	ヨ段
		ㅏ	ㅣ	ㅜ	ㅔ	ㅑ	ㅕ	ㅠ	ㅠ
ア行	語中	ㅏ	ㅣ	ㅜ	ㅔ	ㅑ	ㅕ	ㅠ	ㅠ
カ行	語頭	ㅋ	ㄱ	ㅋ	ㅋ	ㅋ	ㄱ	ㅋ	ㅋ
	方行	ㄱ	ㄱ	ㄱ	ㄱ	ㄱ	ㄱ	ㄱ	ㄱ
サ行	語中	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ
ザ行	語頭	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ
	方行	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ
タ行	語頭	ㄷ	ㄷ	ㄷ	ㄷ	ㄷ	ㄷ	ㄷ	ㄷ
	語中	ㅌ	ㅌ	ㅌ	ㅌ	ㅌ	ㅌ	ㅌ	ㅌ
ナ行	語中	ㄴ	ㄴ	ㄴ	ㄴ	ㄴ	ㄴ	ㄴ	
ハ行	語中	ㅎ	ㅎ	ㅎ	ㅎ	ㅎ	ㅎ	ㅎ	
パ行	語中	ㅍ	ㅍ	ㅍ	ㅍ	ㅍ	ㅍ	ㅍ	
マ行	語中	ㅂ	ㅂ	ㅂ	ㅂ	ㅂ	ㅂ	ㅂ	
ラ行	語中	ㄹ	ㄹ	ㄹ	ㄹ	ㄹ	ㄹ	ㄹ	
ワ行	語中	ㅇ	ㅇ	ㅇ	ㅇ	ㅇ	ㅇ	ㅇ	

中学校

「日本に来た経過と外国人差別」

(平成16年度 中学生人権作文コンテスト 横浜市大会 入選作品【最優秀賞 / 横浜市大会審査委員会特別賞】)

私は15才の女の子で〇〇と言います。私の名前を聞いて、日本人と思ったかもしれませんが。確かに私の祖先は日本人ですが、私は自分が日本人に入るのか入らないのかわかりません。私の祖父は中国残留孤児で、小さい頃からずっと中国で育ちました。私も中国で育ち、中国漢族の黒龍江省綏化市東富郷が私の故郷であり、私が生まれ育った大地です。

私たち家族は故郷でとても幸せな生活を送っていましたが、数年前のある日、突然日本から一通の手紙がきたのです。その時私たちはなぜ日本から手紙が来たのかとすごくおどろきました。私たちには日本に親戚もいないので全然思いあたることもなく封を開けました。手紙を読み終わって、日本政府が祖父を祖国日本に帰したいという事がわかりました。でも日本に行くことは祖父がずっと願っていた夢でした。私たちも祖父と一緒に日本に行きたいと思いました。その時祖父は自分の夢がもうすぐかなうとうれしくてたまらないようでした。祖父の喜ぶ姿に私たちもうれしくてたまらなくなりました。その時のうれしさは言葉にできないほどでした。

その2日後に祖父は突然私たちに日本に行かないと決めたと言いました。その時私たちはとてもびっくりしました。日本帰国は祖父の願いでしたし、ずっと思っていた夢だったはずですが。祖父がなぜそんな決定をくださったのか、私たちにはわかりませんでした。

後になってなぜ祖父がそう言ったかがわかりました。それは手紙の来る数年前、祖父が突然下半身不随のようになる病気にかかったからです。その病気は不治の病だと言われています。祖父は祖国の為に何もできないだけでなく、政府に面倒をかけるのがこわかったのです。私たちは祖父に祖父の夢をぜひ実現してほしいとすすめ、祖父を説得し、日本に来ることになりました。その後私たちはいろいろな手続きにほんそうし、とうとうその日がやってきました。私たちはついに日本に来たのです。



日本に来て一日目私たちは何もわからず、日本語も日本の習慣もわかりませんでした。しばらくして私たちの生活に一人のおばさんが現れました。その人は政府の派遣で来た生活指導員で、わからないことを聞くとすべて教えてくれます。少したって私は学校に通うことになりました。当時私は中学一年生でした。編入初日に担任の先生が生徒の出席をとっていた時、私は日本語が全然わからなかったのが先生が私の名前を呼んでもわからなくて、クラスみんなが笑いました。先生は私を見てため息をつき頭を横にふりました。私は先生が私をきらっていると思いました。少しして、先生が何枚かのプリントをくれましたが何が書いてあるかさっぱりわからなかったのが、先生に聞きましたがとりあってもらえず、何も教えてくれませんでした。授業が終わるとクラスの子が私をかこんでちんぷんかんぷんなことを話し、じろじろ見て笑いました。その時私は本当にその教室をとびだして一人で大泣きしたかったです。それからの日々もまったく先生の言っていることがわからないし、クラスの子は毎日私を笑いました。こんなふ

うにからかわれる学校での日々が続きました。私はいつも中国での暮らしを思い出しました。中国でのクラスみんなはとても仲が良かったです。あそこには私を外国人として見る人もいなかったし、私に対してよくしてくれる友達がたくさんいました。せっかく自分の祖国に帰ってきたのにこの祖国で外国人のようにみられて悲しくなりました。とうとう夏休みに入り、毎日からかわれなくてすむのがとてもうれしかったです。

新学期が始まる少し前に、突然引っこすことになりました。それがうれしかったが悲しかったかわかりませんでした。うれしいのはからかわれる毎日から離れられることで、うれしくないのは次の学校も今の学校と同じだったらどうしようとか、同じようにからかわれるかどうかとか私にはまだわかりませんでした。

私は心配な気持ちを抱きながら次の学校へ行きました。学校へ着くとまず職員室で手続きをして、その後校長先生と会いました。校長先生は男の先生でもう一人の男の先生と、とても親切にいろいろつたってくれました。先生は私に学校に通い始めるまでにどう自己紹介したらいいか考えてと言いました。何もわからない私に先生は自己紹介で言う言葉を教えてくれました。家に帰って何度も何度もくり返し覚えて、学校が始まる少し前に言えるようになりました。

通学一日目の朝私はとても早く学校に着きました。それから職員室で担任の先生を待っていると、校長先生が来て、「緊張しないでいいよ、担任の先生はとても親切な先生だよ」と言ってくれました。その時もう一人の中国人が私と一緒に待っていて、彼女は何でもわかり、通訳してくれました。そうしているうちに私と彼女は友達になりました。先生が来て私たちを職員室の先生の前で自己紹介をさせました。それから教室へ行き、クラスみんなの前でもう一度自己紹介しました。その時クラスみんなが私を歓迎してくれているように思いました。授業の後クラスの子が私のところに来て自己紹介してくれてうれしかったです。こんなうれしいことがあるとは思わなかったです。私は転校でとてもいい学校にいくことができ、安心しました。クラス全員ではないけれどたくさんのクラスの人が私に親切にしてくれて、私は本当にうれしかったです。



その後もみんなは私によくしてくれました。私がわからないことを聞くと彼らはみんな親切に説明してくれました。先生方もよくしてくれました。学年の担当の先生は社会の先生でとてもよく気がつく先生です。他の先生方も親切で、私をいつも気にかけてくれました。それから私の日本語等に関しても、先生は日本語の先生をさがしてくれたりしました。木曜日は学校で勉強して火曜日、水曜日はそれほど遠くないところへ日本語の勉強に行くことができました。すべての先生が私のことを考えてくれました。

日本人の中にも私と同じような経歴の人がいるかもしれません。その人にもこのような学校で、素晴らしい先生方とめぐり会ってほしいです。今私は日本語も話せるようになりました。私を気にかけてくれた先生方に感謝したいです。まだわからないことがたくさんありますがもっともっと努力して、先生方の期待をうらぎらないようにしたいと思います。私はもうすぐ卒業しますが、いろいろお世話になった先生方を絶対に忘れないと思います。

※原文は中国語ですが、訳文を掲載しました。

第3次

共に生きるために話し合う力を高めよう

目 標

- 率直かつ誠実に自分の気持ちや考えを伝えることができる。 (単元目標2)
- 話し合い活動のマナーとルールを理解し、それらに基づいて話し合い、合意を形成することができる。 (単元目標3)

準 備 物

- ・ 場面設定シート (『対話ですすめる人権学習』 P114)
- ・ 状況シート (『対話ですすめる人権学習』 P115)



この学習活動については、『対話ですすめる人権学習』(P113～P116)を参考にしましょう。

展 開 【3-(1)】

学 習 活 動

- 1 アイスブレイキングをする。
- 2 場面設定シートを使って、2人1組のロールプレイをする。
- 3 4人の登場人物の話し方の特徴を話し合う。
- 4 状況シートの状況①・②について、それぞれの話し方が4つの話し方「びくびくさん」「やんちゃさん」「ひねくれさん」「いきいきさん」のどれにあたるのかを考える。
- 5 「^{アイ}I(私)メッセージ」の表現の仕方を知り、「状況シート」の状況③～⑦を練習する。
- 6 感想を書き、発表し合う。

支 援 及 び 留 意 点

- ・ 実態に応じて簡単なアクティビティを活用する。
- ・ ロールプレイ後、いくつかのペアに演技させて、話し方を確認させる。
- ・ 日頃の自分たちの会話がどのパターンに近いか考えさせたり、ロールプレイをしていて気持ちがよいのはどれかを考えさせる。
- ・ 「いきいきさん」の話し方になっているか確認させる。

評 価 規 準

アサーティブな自己表現(非攻撃的な自己主張)の方法を理解している。

【知 識】

相手を尊重しながら、自分の意見を率直に伝えることができる。

【技 能】

学習活動

- 1 簡単なアサーティブトレーニングを行う。
- 2 話し合い活動のマナーとルールをグループで考える。
- 3 グループの代表が発表する。
- 4 学級全体の話し合い活動のマナーとルールを決める。
- 5 マナーとルールに基づいて、学級の課題や解決策について話し合い、取り組むことを決める。
- 6 活動を振り返る。

支援及び留意点

- ・「いきいきさん」の話し方で表現させる。
- ・停滞しているグループには、司会者を決めさせるなど、話し合い促進の支援をする。
- ・「I（私）メッセージ」や共感する態度等、これまでの学習内容を整理させる。
- ・学級の現状に応じて課題を見つけさせる。
- ・合意した解決策を学級の取組として実行させる。

評価規準

話し合い活動のマナーとルールをすすんで考えようとしている。

【価値 態度】

マナーとルールに基づいて、合意を形成するために話し合うことができる。

【技 能】

ポイント

- 第3次は学級の実態等を考慮に入れ、3時間扱いとしてもよいでしょう。



